

オンラインセミナー
自然保育研究の“いま”を知る



2025年8月9日（土）13:00～14:30

講師：下村 一彦 会員（東北文教大学）

テーマ：子どもの外遊び・体験を保障する園の運営と関係者の認識

【プロフィール】

下村 一彦（しもむら かずひこ）

東北文教大学 准教授。

専門は、教育制度学・教育行政学。東北大学大学院教育学研究科博士課程退学。教育学（修士）。

NPO法人青空保育たけの子理事、社会福祉法人三瀬保育会理事、NPO法人園庭・園外での野育を推進する会理事。



【参加費と申し込み方法】

日本自然保育学会会員（一般会員／学生・実践者会員）無料

*団体会員は一団体につき10名まで無料で視聴可能

*会員はPeatixからではなく、会員専用参加申込フォームからお申し込みください（学会事務局よりメルマガでお知らせします）。

非会員1,000円。こちらのページからお申し込みください。

<https://shizenhoikukouza.l.peatix.com>



【お問い合わせ先】

shizenhoikukouza@gmail.com 日本自然保育学会 実践・研究推進委員会 山口・酒井

【下村一彦会員の研究概要】

山形県山形市にある「はらっぱ保育園」の分園が蔵王で始めた「里山保育」に関する調査に携わったことをきっかけとして、「森のようちえん」の研究を開始する。2021～2024年度の4年間、科学研究費助成事業による研究「『森のようちえん』の無償化と義務教育段階への展開にみる保育・学校制度の変容」（基盤研究（C）課題番号21K02176）に取り組む。

同科研においては、まず保育無償化の政策の影響を受けた全国の「森のようちえん」の運営形態の変化について、認可園や地方裁量型認定こども園への移行のプロセスに着目して調査を行った。この調査の過程で明らかになった、公立園が民間移管後に「森のようちえん」化していった事例や、「森のようちえん」が新設された事例について、運営形態変遷のプロセスや関係者の意識に関する調査を行った。また、「森のようちえん」運営団体による居場所及びオルタナティブスクールの開設、1条校の設置などの動向とその要因についても分析を行った。さらに、同科研においては、大学生世代となった「森のようちえん」卒園生の追跡調査も実施している。このほか、園外や森での活動だけではない子どもの外遊び保障に関する研究として、園庭整備や公園管理活用に関する研究にも取り組んできた。

研究者としての下村氏の問題関心のスタートは、義務教育制度の意義や学校選択制度等の教育制度・教育行政のあり方にあったという。こうした関心を抱きながら、地域の「森のようちえん」や、「森のようちえん」運営団体が開設するオルタナティブ教育施設に出会った経験を通し、現在、20年かかって当初の問いに改めて向き合っているということである。

自然保育に関する主要論文として、以下がある。

- ・ 下村一彦（2025）「千葉県木更津市での公立園の民営化による森のようちえんへの転換—保育の転換とその推進要因—」『自然保育学研究』第7巻第1号
- ・ 下村一彦・宮崎温他（2025）「大学生世代となった‘こどもの森幼稚園’（森のようちえん）卒園児の非認知的特質の傾向」『東北文教大学紀要』第15号
- ・ 下村一彦（2023）「『森のようちえん』運営団体による小学校段階の取り組みの現状～オルタナティブスクールへの就学動向を中心に～」『東北教育学会研究紀要』第26号